SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

教師の資質能力向上および学校組織の活性化を図る評価システムに関する研究：教科開発学を視野に入れた教師の資質能力と学校組織の往還

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2016-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 一之瀬, 敦幾 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009580

（課程博士・様式９）

愛知教育大学・静岡大学大学院教育学研究科

学 位 論 文 審 査 報 告 書

審　査　委　員

審査委員長　尾形和男

委　員　山﨑保寿

委　員　白畑知彦

委　員　村越真

委　員　村山功

審査期間　平成２７年１１月２６日 から　平成２８年　１月２３日

審　査　論　文

教師の資質能力向上および学校組織の活性化を図る
評価システムに関する研究
―教科開発学を視野に入れた教師の資質能力と学校組織の往還―

専　　攻　共同教科開発学専攻

氏　　名　一之瀬　敦幾

生年月日　昭和３０年１１月２７日

提 出 日　平成２７年１１月２０日

（課程博士・様式１０）

審　査　概　評　　（1,000 字程度）

本研究の目的は、現在全学校に導入されている評価システム（学校評価および教員評価）の課題を明らかにしたうえで、特に教員評価システムに焦点づけて教員が自律的に資質能力の向上を目指すための理論的枠組みを設定し、調査研究に基づいてその理論的枠組みの構造を実証的に明らかにすることである。また、教育環境としてこれらの評価システムを捉えることにより、本研究で解明し得た研究成果を教科開発学の展開に資することである。

この目的を達成するために、本研究では次の３つの課題を設定している。

（１）学校評価および教員評価に関する現状と課題を明らかにしたうえで、本研究の根幹となる ALACT モデルの理論枠組みを構築すること。

（２）教員を対象とする質問紙調査の結果に基づいて、教員評価システムの現状を考察し、教員評価システムを有効に推進するために、教員の資質能力と学校組織の関係に関する内的要因を明らかにすること。

（３）（２）の課題によって解明された学校組織の内的要因を ALACT モデルに対応させて構造化し、多変量解析によって、その構造の有意性を検証すること。

これらの課題を解明するための研究方法として、本研究では次の方法をとっている。

（１）の課題に対しては、理論面に関する先行研究を精査することにより評価システムに関する概念枠組みを構築している。特に、本研究の理論的構造として、職場学習論とコルトハーヘンの ALACT モデルを検討することによって、成人の学習と成長に関わる基本的なプロセスを明確化した点は優れた着眼である。

（２）の課題に対しては、先行研究を踏まえた質問紙により静岡県内外の学校管理職を対象とした調査を実施し、99 校の回答の分析に基づき、学校評価および教員評価の現状と課題を明らかにしている。特に、教員評価システムを教員の資質能力の成長につなげる観点から ALACT モデルに対応する初期モデルを導いている点は、学校評価および教員評価に関する従来の実態調査の域を超えたレベルに達している。

（３）の課題に対しては、職場学習論を踏まえた質問紙により静岡県内の公立高校教員を対象とした調査を実施し、1652 人の回答の分析に基づき、因子分析によって教員評価システムを有効化させるための組織的要因を抽出している。そして、それらの要因が教員の資質能力の向上につながるプロセスをパスモデルとして構造化し、テキストマイニングの結果も踏まえたうえで、共分散構造分析によってパスモデルの適合性を検証している。

本研究の成果とその特色としては、上記の課題に対応して次の点を挙げることができる。

（１）の課題に関する成果として、本研究の理論的構造として、コルトハーヘンの ALACT モデルを検討し、成人の学習と成長に関わるプロセスを二重ループで捉える視点を導き出した点は優れた着眼である。

（２）の課題に関する成果として、学校評価および教員評価の現状と課題を実証的に明確化しただけでなく、教員評価システムを教員の成長につなげる観点から ALACT モデルに対応する初期モデルを導いている点は、学校評価および教員評価に関する従来の実態調査の域を超えたレベルに達している。

（３）の課題に関する成果として、教員評価システムを有効化させるための教員の資質能力および組織的要因をパスモデルとして構造化し、共分散構造分析によって検証し、実際の評価システムの改善に関する示唆に富む結果を得ている。この点は、本研究のテーマに関わるこれまでの研究領域では見られなかった到達点である。これらは、全学校に導入された教員評価システムを成人学習論、職場学習論、ALACT モデルの観点から捉え直し共分散構造分析による統計手法を加味することによって到達し得た研究成果といえる。

以上、本研究は先行研究を超える到達点に達した研究成果を有しており、それらの研究成果は博士論文の水準に相応しいといえる。